明治四十一年十一月五日（木曜日）　京城新聞　第百二號

京城新聞

農商狀況（一）

左に驛傳南北道に於ける農商業の狀況を掲載すべし

進永

進永は京釜線三浪津驛より十哩一鎭を西南に距る馬山線中進永驛附近の總稱にして韓人農家の二三戶又は數戶各所に點在せる寂寥たる村驛なり進永驛には村井農場に屬する農夫約四十戶あり他に二三の運送業者（鐵道の）及び鐵道驛員、駐在巡查等の住宅あるに過ぎず又在留邦人の組織せる團体等なし

▲作柄●　水田は其低地に屬するものは水害を受け且つ早稻中稻等去八月末の暴風の爲め多少の損害を被りしも其後照込の十分に□□□□たれば昨年に比し約一割方の收穫の見込みなり畑作物は大麥の出來榮へ十分なりしも結實時季に雨量少かりしため實入十分ならず約二割方昨年より減收なりと云ふ大豆は夏物は風水害のため五步位の減收と見て大差なかるべし尤も爰十余日間内に適度の降雨あらば十分見直しの余地ありと云ふべし

▲商況●　馬山在留邦人中輸出業者は目下本國に於る米豆類追々下落の爲め何れも愼重の態度を取り一方韓內地よりの出穀も亦從て捗々しからず又輸入品の賣行も稍々沈靜の境に在るも爰一二ヶ月を經過し追々出穀の時季に際せば市況一轉大に活氣を呈するに至るべし

▲通貨●　新貨及葉錢共流通し蓋し其流通狀況は釜山港附近の狀態と大差なきが如し

▲人氣●　一般に平穩にして日韓人間の交情圓滿なり

鎭海

在留邦人十五戶約三十人ありて郵便電信所あり在留者の主なる營業は米穀商三戶其他質屋雜貨商等あり又宿屋一あり

▲作柄●　米作は昌原附近同樣多少の風害を受けたるも兩作十分にして目下の狀況にては昨年よりも多少は增收の見込あり大豆綿等は風害を被り約三割位の減收なるべし

▲通貨●　多少新貨の流通を見るも其大部分は葉錢を使用す

▲人氣●　當地にては村井吉兵衛氏計劃の農場の外他に日本人の在住者甚だ少く又右農場にては工事用人夫並に小作人等は主に韓人を使役し彼等に好個の職業を與ふるを以て日本人に對する感情は良好なり

▲通貨●　工事賃金等は若新貨を支給せしを以て一小部分に於る取引に葉錢を用ふるの外新貨の流通圓滿なり

昌原郡其附近

本郡は馬山鐵道昌原驛より馬山驛を距る五里四鎖又京釜線三浪津驛を距る十九哩五鎖に在り

▲人氣●　日本人に對する韓人の感情は一般に良好なり



（五十六）　河合柳葉

中村樓の一室で、相對して語らひつゝある は大山豐春と山川孤舟の兩人である。

大山は悠々と風を煽ぎながら、

「た呼立て申して失禮でしたが、急に御相談申したい事が出來ましたのですから。」

「奈何致しまして、ぞの道遊んで居る躰ですから、少しも御道樂には及びません。」



居るのですから設へ甚麼故障が出やうと管はん決心で居りますが、實は貴方の身の上ですて、最初からのお約束で御歸京の節は御同伴と云ふ事に極つて居るのでございますが、君子樣のお身の上すら、故障が出やうと思ふのに、兄上も御同伴と云ふ事になりますと、猶以つて事が面倒と考へますから、如何でせう、誠に申かぬる儀ではありますが、貴方だけ暫く京都に留まつて居て、君子樣のお身の落着致した上、お出で下さるやうに致したいと思ひますゆゑ、此儀を御相談申したいで、それゆゑ態々御足勞を願つた理です。」

山川も烟草を燻しながら

「成る程、御有理なお話でございます、君子の事に就きましては、上流社會にあり勝な叢のやうに考へられますから、ではどうぞ惡しからず御承諾下さるやうにお願ひ致します。」

「それは御都合で決して厭ひませんから、宜しいやうにお願ひ申します、しかし妹の身が首尾克く極りました曉は、お棄置なくお取斗らひの程呉々もお願ひ申して置ます。」

「ありやモウ、屋敷の方の首尾さへ宜しければ、直にもお出でになるやうにお取斗ひ申します。」

「何分にも宜しうお願ひ申します。」

大山は卷煙を取出して火を移しつゝ、

「除の相談おやありませんが、御前の御病氣も醫士に診察させました所が、モウ悉皆御全愈だと診斷致しましたので、來月の十日頃に東京へお歸り遊ばす事に略決定したのでございます」

「へゑ、それは何よりお慶たい事でございます、スッカリ御全快遊ばしたのですか……それは、それは」

「うれに就きましては、今日御屋敷の方へ御前からも、私からも書面を差出しまして御歸京の日取から君子樣の事まで、略認めて出すは出しましたが君子樣の事は突然の事だから、御校室樣は素より舊弊な家令は、必然故障を唱へるに相違ないと思ふのですが、それは御前始め私も最初から覺悟して事とは申しながら、突然お連れ歸りになりましたら、御故障が出ないとも申されませんそれさへあるに、私までが君子の兄で候と一緒に上りましては、猶更故障が出るのは見え透いた道理でございます實は私もうの事に就きましては考へて居るのでございます、これは御厄介になることしても、妹の身が何れとも極つた上が宜しからう、其上で時機を見計らつて御厄介になるやうに爲たが双方の利益だと、獨で考へて居りましたゆゑ、御前なり貴方なり、然う云ふ思召でございますなら、何れへなりと管からうやうにお取極めを願ひます」

「始め約束して置きながら、今更這麼事を云つては太だ不愉快の感じが起るかも知らないですが、どうも然うした方が双方の利

廣告

木炭大安賣

今般山元と特約し良炭多數荷着致候に就ては特別の廉價を以て大賣出仕候間多少に拘らず御用命の程奉願上候

京城本町三丁目

林豐商店

特別裁縫

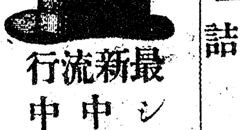
最新式冬服新荷着

背廣　半トンビ　詰衿　各種

京城明治町一丁目

東京塚原支店

原雄吉



最新流行　シルクハット　中山帽　中折帽

京城本町三丁目

龜屋

電話二十七番　四七五番

倉庫增築落成廣告

資本金十五萬圓　政府貸下金廿八萬圓　諸積立金二萬六千圓

京城南大門外古市町

漢城共同倉庫株式會社（電話五四四番）

出張所々在地　仁川　平澤　江景　麻浦

營業　倉庫　商品　一般の業務　貸付　保稅　保稅貨物　取扱人

右の業務廣く各位の御需めに可應候尙近日運送業並に外國火災保險事務取扱を開始可仕候條精々御取引被下度候

南大門出張所新設廣告

來ル十一月四日ヨリ南大門外舊韓美倉庫會社跡ニ於テ當行出張所ヲ開設シ一般銀行並ニ倉庫業相營ミ申候間御愛顧奉希上候

株式會社　大韓天一銀行

電話　本店五五八　出張所六八一

土耳古煙草直輸入大販賣

本社ハトルコ最大煙草製造會社ニシテ其製品ハ原料精選其風味ハ良好無比ナレバ夙ニ世界各國ニ最多ノ輸出ヲナシ好評ヲ以テ迎ヘラレツヽアリ御小賣トモ廉價ニ販賣仕候

デーヱス、パ子リス會社出張所

京城本町四丁目角　仁川港本町通　仁川代理店

顯原兄弟商會

菊花壇

昨年愛菊家錦氏の好評を博したる菊花の上新種類數十種を購入し今を全盛に咲き亂れ本日より縱覽に供し候に付御婦人方御同道御觀覽被下度

菊一本の價百圓

右は天下一品の名花山梨縣甲府に發芽したるもの東京某伯爵家に於て買求め御秘藏中の者なるも弊樓申受け培養したるに驚くべき天下の逸品にして御一見の價値確かに有之候者と相信候

御注文に依り御一人前二十錢の茶菓差出候

御參考　御食は御一人前金一圓五十錢にて山海の珍味を供し候

京城新町　皆春樓

廣告

本會ハ秋季總會ニ於テ左ノ決議ヲ爲ス

一　往診料　第一回金壹圓以上
　　次回以下無料トス
　　但シ患家ノ需ニ應ズル場合一回金五十錢以上トス
一　宅診料　初診金五十錢以上
一　入院料　一日金貳圓以上

右十一月一日ヨリ實施ス

京城醫會

煙突掃除　ストーブ据付請負

電話三一四番

衛生社

▲無料紹介欄▼

人事部

●求婚　本年二十八月收入十圓眞正体健十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六七）

●醉婦三名入用　太平町一丁目田舍家（九三）

●求婚　年廿六血統正確業務月收五十圓容姿不問非體節操体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七〇）

●京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば職工を乞ふ　氏名在社（七二）

●被雇度　朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不望年十九保證人あり　氏名在社（七二）

●確實なる御宅にて家事に從事す御依頼の方あらば御申越し火辨炊の上委細承致すべし　姓名在社（七四）

●仲居入用　年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尙宜し　大和町江戶善（七九）

熊本縣人　市下確氏の消息を知りたし　ヰ本生（七七）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八〇）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）

清語

夜間七時より九時迄敎授す　南大門通南門湯裏相生町一　清語速成學會（八五）

電話至急讓渡したし　姓名在社（八六）

小供入用　但十八以下　氏名在社（八七）

●雇れ度　年廿五歲にして普通敎育あり体格極めて壯健何處にてもよし至急雇はれたし　氏名在社（八八）

物件部

古着道具買たし本町七丁目一六號（七四）

●貸地　旭町一丁目の山の手にて風景絕佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ　姓名在社（七〇）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪斗附の貸家あり　櫻井時計店（七八）

●盆栽、刺繡、編物、造花、摘細工、英語敎授す和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戶　吉谷（八一）

貸地

龍山十五間道路南大門外四千坪割貸　本町四ヶ所洋物店通三二一番（八二）

●家借度　六疊四疊半各一温突一間叢押込炊事場付の家を借りたし　氏名在社（八九）

空地七十坪ヲンドル九間格安貸渡したし　氏名在社（九〇）

貸地

旭町一丁目高燥風景善き土地四千坪あり御望の御方は下名へ　電話四九四番　語韓洋行（九一）

人力車夫至急十五名募集　氏名在社（九二）

明治四十五年迄大賣出し景品附福金二千五百圓

賣出　十月一日より　抽籤　十一月十日　期間　十一月五日迄

毎三圓毎に福引券壹枚贈呈す

直輸入商　卸小賣商

京城本町二丁目

辻屋

本店　電話一八四番　支店　電話三六六番

目賀田前顧問を想ふ

時局艱にして英雄傑士を懷ひ家道衰へて良妻を想ふ、余輩は近時の統監政治に就て目賀田前顧問を想起せざるを得ず、帝國が韓國指導の任に當るや久し、日清戰役に於ては明治政府の大立物井上馨が星亨齋藤修一郎の如き俊才を幕僚として率ひ來り銳意其實行に從ひしも、不幸にして何等見るべきの効績を擧げ得ざりき、之れ井上馨及幕僚の手腕なきが爲に非ずして當時は露國の勢力旺にして佛國及獨逸の如きも暗に帝國の韓國に於ける施設に好意を表せざる等複雜なる外交の關係ありし爲に意の如くならざりしは亦止むを得ざるなり、日露戰役後は此等複雜の外交關係は全く一掃せらると共に保護條約は締結せられ帝國の大政治家伊藤公は統監として人材を雲の如く率ひ來りて保護統治の任に當る、世人は必ず大効績を擧げ得べきを期待せり、然るに爾來其成蹟を見るに、唯表面に於ける形式の改善に止りて統治の最要目たる韓人を心服せしむるに至らず、眞に獨立の思想を以て冒すべからざるの威信に依り韓人を心底より服さしむるは統治上の最要義なり、此威信にして行はるれば其余の儀容形式等は唯命ずる儘なり、伊藤公の韓人に對する言動は遺憾ながら之を缺ぎ往々狎れしめて與みし易しと思はしむるの觀あり、故に精神的に渠等を心服せしむる能はざる爲に總ての施設に支障を來たすなり、曾禰副統監に至りては就任後日尚は淺く研究時代に屬するを以て之を知るに由なし、要するに今日迄韓國經營に當りたる人にして眞に偉大なる人格に依り獨立の思想を以て韓國人を心服せしめたるものは一人も見出さず、惟ふに之れ帝國政府に一定不變の方針なきに起因すべし、英國の如き佛國の如き其殖民地保護國を統治する上に就ては一度其方針を決定すれば一意之を專行するに勤むる爲に其任に當るもの〻手腕を發揮するの便宜あるべし、然れども深く顧れば本國政府の方針不變も必要なれども其任に當れるもの〻人格を以て重しとなさゞる可らず、如何に廣大なる權力を有するも凡庸政治家にては到底何事もなし能はざるなり、余輩が目賀田前顧問を想起せる所以のものは彼を以て理想的の人格なりと云ふには非ず、比較的彼の人格が異彩を放てると思ふによる、彼が爲したる財政計畫及貨幣整理の如き余輩の全然贊する所にあらざるも、彼に取る處は一度定めたる方針は飽迄遂行するの勇と信とを有する所にあり、彼は其在職中に充分此信と勇とを發揮したり、如何に韓人等が囂々喧騷するも自若として斷行したり、彼は其職分を行ふに權威を以てせり、韓人等も最初は反抗を試みしも終に其甲斐なきを悟りて服するに至れり、彼は此點に於て慥に成効したり、彼の權威的斷行は韓人の頭腦に好印象を與へたり、彼は慥に韓人を統御するの術を解したり、韓人等が伊藤公は與みし易しとなせども彼に對しては冒す可らずとなせり、與みし易しとの感を與へると冒す可らずとの感を與ふるとは其施設上に大なる差異を生ずるに至る、韓國統治には冒すべからざるとの威嚴を必要とす、威信を行はんとするには其人格に備はる權威なかる可らず、只官位勳等の高きのみにては不可なり、之れ全く人格に依るものなり、此點に於て彼は稍々之に近しと云ふべし、余輩は再び彼を立たしめんと冀ふものに非ざるも時局に顧み彼を想起するを禁ずる能はざるのみ、

東京電報

▲十月下旬輸出超過

十月下旬の貿易は四百四十六万圓の輸出超過を見る

▲東宮殿下御昇進

皇太子殿下は明三日陸海軍中將に御昇進あらせらる

▲養老金制度調査

今春英國議會を通過せる養老金制度は日本にも施行の筈にて大藏省にて調査研究中なり

▲李容九の談話

李容九語りて曰く過般誅殺されたる一進會員の遺族に對して弔慰金を送附されたるは一進會員の感謝する所なるも遺族が此れを受領するや否やは聞知せず

▲觀兵式の壯觀

今日の觀兵式は砲騎旅團特科兵等參加のため式場狹隘を感ずる程にて壯觀を極め天皇陛下には有栖川竹田兩宮殿下を隨へさせられ無蓋馬車にて順次御閲兵あり、河村指揮官の號令にて分列式を行はれ御機嫌麗はしく御還幸あらせられたり

▲豐明殿の御宴

今日豐明殿御宴の勅語左の如し「本日朕の誕辰に當り各國代表者並諸大臣等と宴を開き歡を共にするは朕の滿足する所なり茲に友邦代表者の君主及び大統領の健康を祝し併て交際の益々親密ならん事を望む」(以上三日發)

雜報

●天長節と韓皇

一昨三日の天長節に當り韓國皇帝陛下は左の親電を發せられたり

今貴天皇陛下の天長節に當り茲に深厚なる祝意を表し併せて貴皇室の益々隆昌ならん事を祈る(譯文)

右に對し我天皇陛下よりは左の通り御返電ありたり

朕の誕辰に對し陛下の懇切なる祝辭を忝ふし感銘に堪へず茲に敬謝の意を表す

●佳節祝賀彙報

理事廳拜賀　居留民中の重なる人々は例年の如く午前十時より續々理事廳を訪問し理事官の案内によりて今上の御影に拜賀を遂げたり因に御影を安置せる廣間の内外は所狹きまで菊花を以て飾られたるを以て其美其由々しき言はんばかりなかりし

理事官園遊會　正午より來賓續々と集まり午後一時に至つて其數二百餘と註せらる始めに三浦理事官より鄭重なる挨拶あり續て君が代の奏樂起る樂了るや石塚參與官の發聲により一同陛下の萬歲を三唱し夫より立食に移り續て模擬店開かれ甘黨辛黨共に要領を得て辭し去りたるは午後二時半なり當日來賓中の重なるは石塚長官、村田少將其他文武官吏中村會頭、市原、清水、菅原、上杉の各銀行家和田議長熊谷民長桐原警視各民團議員各教育家等なり因に婦人客へは別に[illegible]三浦夫人親しく接待に勉められたり

統監邸參賀　午前十時より各國領事及び在留外人の重なる者韓大臣其他は統監邸を訪問し曾禰副統監に向つて各祝賀の辭を述べたり

統監邸園遊會　午後二時半より内外人の來會せるもの二千餘名一同綠泉亭下の入口に於て香深き菊花のバッチを受け喜色滿面統監邸の裏山路を上下し程良き場所に設けられたる模擬店に就きて各欲するところを求め傍ら路傍に設けられたる時計臺大象亦十字勇士其他の飾物を賞し(飾物中大纛が一番の出來なり)纔で元の軍司令部に至れば茲には大天幕を以て假食堂は作られ飾るに萬國旗球燈及び紅白の幔幕を以てせられたり、午後三時半爆竹の相圖を以て食堂の開かるゝや二千餘の紳縉貴女は整々肅々夫々卓に就て纔て軍樂隊に因つて君が代の奏し了らるゝや副統監は起つて朗々陛下の萬歲を三唱す衆之に和し其聲千代田城に達したりと覺らる纔て軍樂手は曾禰子爵新作の奉祝歌を三吟ず拍手喝采傍人を聾せしめん許りなりし午後五時に到つて衆客顏笑に滿ち主人曾禰子に感謝しつゝ隨意退散して各歸路に就けり

民團祝賀會　日本人倶樂部に於ける民團祝賀會は午後六時を以て開催せらるゝ定刻に到つて會するもの三百余名始めに君が代の奏樂あり、次に熊谷民長の請により長谷川大將の音頭を以て陛下の萬歲を三唱し終て立食の後各模擬店に於て三々五々茶菓を探りつゝ快談を試み午後八時散笑の裡に散會したり

各學校の奉祝　高等女學校各小學校にては午前十時例年の如く拜賀式を擧げたり

軍司令部奉祝　龍山軍司令部にては觀兵式後將官將校等軍司令部に參集し整肅なる祝賀會を開かれたり

龍山民團　龍山民團にては民長各議員有志者等相集りて盛なる祝賀會を開き奉祝の誠意を表せり亦小學校に於ては午前生徒を集め拜賀式を擧行せり

憲兵隊奉祝　憲兵隊本部に於ては將校下士其他出席して祝賀會を開けり

●陸軍觀兵式　十一月三日十時三十分龍山練兵場に於て長谷川軍司令官の閲兵あり後分列式を擧行す參觀人多數あり盛況なりき

●仁川の天長節

民團祝賀會　民長民團諭員諸氏發起となりて在留民祝賀會を開きたり、各學校は何れも拜賀式を擧げ老幼男女市中に出て國旗翩翻たる間を練行くさま賑敷見えたり

理事官夜會　信夫仁川理事官は午後八時より内外[illegible]を官邸に招待し盛なる夜會を開き祝意を表せり

●拓殖重役發表期

東洋拓殖會社副總裁の候補者は、目下五六名の多きに達し未だ内定するに至らず目下桂首相と宇佐川中將との間に於て秘密に協議しつゝあり各重役の發表は十一月中旬なる可し

●參與官會議

四日午前十時より統監府に各部參與官參集定例會議を開き午後一時散會せり

●兩大臣の開城行

任度支部大臣高法部大臣は開城なる參政課視察のため今朝南大門發列車にて出發せしが目下同地方に出張せる李學部大臣と共に明日歸京する筈なり

元山通信

元山の大紛擾

…元山日報の休刊…川崎民長の不信認…理事官の上京…

今や殺氣天に滿ち紛囂喧騷殆んど收拾すべからざる元山居留民團の實狀を聞くに其△發端は謂ふ迄もなく例の民長官撰問題にして最初統監府令の出づるや各地とも擧つてこれに反對したるが元山民團も亦其旗幟を鮮明にして之れに反對し統監に之れが撤廢の建白書を提出したり然るに當時元山の民長缺員となり居れるより若松理事官は統監府の旨を受けて其當時の助役川崎克を官撰民長と爲すべく民會議員に協議したるに文盲無識の議員等は皆旨く理事官に誤魔化されて極めて秘密の裡に贊同的の答申を爲したるより遂に川崎克の任命を見るに至りたるが川崎克も嘗て官撰民長令に對して反對の意志を發表し居たる事とて其就職に際し体面を氣遣ひ名は官撰民長なるも實は民撰民長なりとの苦しき言譯を爲して就職するに至りたるが居留民の全体は此時始めて議員等の[illegible]せる行動を知りて憤慨し期せずして會するもの百餘名茲に於て△革新同志會は組織され從來横暴極まりなき舊議員の妄擧に嫌焉たるもの先を爭ふてこれに趨る革新同志會の勢力は元山の天地を騷すに至りて舊議員一同に對し辭職を勸告したるが舊議員等は其答辭に窮し遂に之を若松理事官に訴へて△威壓を試みんとし理事官亦之れに同意して同志會の幹部を理事廳に召集し徒らに紛擾するが如き事あらば退韓令の命下をも敢て之を辭せずと威嚇したるにぞ却つて一層の反抗熱を昂め愈々益々急激に舊議員に彼れ是れする内に議員の任期漸く滿了せんとするに際し從來經費の關係上缺員となり居たる會計役に舊議員等が組織せる七生會(高利貸組合)々員にて目下長崎に在る荒木綱太を撰擧したるより同志會の連中は益々其亂暴に憤慨し舊議員を面詰したるも彼れ等は毫も處決の必要なしとのみ答ふるより遂に去る廿二日歌舞伎座に於て△政談大演說會を開き民團財政の紊亂と舊議員の矛盾と横暴と無定見とを激しく攻擊し終つて居留民大會に移り廿五日を以て改選すべき民團議員には一名も舊議員を再撰せざる事を決議したるより競爭は俄かに激烈となりたるも人心を離れたる舊議員等は到る處に於て攻擊を受け到底革新同志會に對抗し得ざるを悟り貸借關係(金錢家屋を問はず)に付威壓を試み一方莫大の金錢を撒き散らして買收に着手したるも此の間に立つて嚴正中立を守り侃々諤々の議論を爲せる△元山日報の言論に妨げられ容易に其目的を達するを得ず日は益々切迫して競爭は愈々激烈となり壯士劍を杖つき仲仕政談に業務を捨つるに至り舊議員派には到底一名をも撰出し得るの見込立たざるより一策を案じ撰擧の前夜午前二時に至り元山日報主幹西田常三郎及主筆中村彌平太兩氏の不在に乘じ職工を叩き起して撰擧の形勢及新聞社の立場に關する△僞せ號外を印刷せしめ一方本紙の全部を舊議員渡邊半藏方に持ち去りて配達せしめず僞號外の配付を終りたる後ちに之を知りたる西田氏は非常に憤慨したるも既に遲く爲めに同志會は非常の打擊を受けたるも△選擧開票の結果は舊議員五、新議員三革新同志會八と云ふ結果となりたるより舊議員等は俄かに新聞社の株主總會を開き持株の多數を利用して元山日報は株主多數の利益を害するものなりとの理由に據り遂に△元山日報休刊を決議し西田中村の兩氏は退社する事となりたるが一方同志會は[illegible]團財政整理の爲め病院の廢止と川崎民長及荒木會計役不信認を表白する爲め其給料を半減する事を決議し西田氏は例の僞せ號外に關して其當事者たる△戸田弘毅其他を告訴するに至り四五のもの警察に拘引せらるゝの有樣となり紛々擾々殆んど如何ともす可らざるに至りたるが要するに皆これ△若松理事官が小才を弄して大事を過りたるものなるが理事官も今に至りて其[illegible]措置に苦しみ且つ自己の秕政を掩ひて統監府に報告せんが爲め本日出發上京の途に就けり(以下次便)十一月三十一日

●露油の韓國策

在橫濱ライヂングサン商會は豫て韓國に販路を擴張せんとし曩に支配人英人スミス氏を始め近藤賢二氏等を派遣し遍く視察せしむる所ありたるが此の程愈仁川港東町四丁目に出張所を設置し同店の主任として神宮茂八氏を擧げ氏をして渡韓せしめたるが追て同地にタンクを設置する目論見なりと

●十月中運輸總收入

十月中鐵道管理局に於て取扱たる旅客收入二十二萬二千二百十六圓四十一錢荷物收入十五万二千二百六十二圓十七錢合計三十七万二千四百八十九圓五十八錢にして一日平均一万二千十五圓六十六錢なり

●南大門工事竣成

南大門の保存を兼ねたる兩側道路の修理工事落成したるを以て明六日午後四時委員坂出鳴海三浦彌五郎柳正秀の三氏統監府及各部の高等官新聞記者等を該門二層樓上に招待し茶菓を供して觀覽せしむると云ふ

●軍隊歸還

第五十一聯隊一大隊四日午前十一時十分南大門發歸還せり

●第五十一聯隊本部

第五十一聯隊本部志波大佐以下四日午前十一時十分南大門發歸還せり見送人は明石村田兩少將山形藥師川兩憲兵少佐其他在京將校多數あり龍山にては軍司令部幕僚將校見送れり

●野砲兵咸興着

咸興駐屯野砲兵第六聯隊第四第五中隊は十月廿九日駐屯地に到着せり

●警務局茶話會

本日午後二時より中樞院内警察官練習所に於て警務局茶話會を開催し岩井警視の北韓視察談ありなり

●關釜連絡船出入客

十月中關釜連絡船出入客數は五千百三十七人内渡日客二千百七十五人渡韓客二千九百六十二人小手荷物數四千七百十七個内渡日荷數二千五十個渡韓荷物二千五百六十七個なり

●新任露領事

新任京城露國總領事ソモッフ氏は二日夜入城せり

●工學顧問妻木博士

は客月廿八日京城出發平壤新義州安東縣鎭南浦及[illegible]鐵山等視察の上同三日午後歸城せられたり

●米副領事

米國副總領事ゴルドンパック氏は遊獵の爲め近日平壤遂安地方に旅行すべしと

●菊地長風氏

過日東上の途に就きたる同氏は京都を經て無事着京目下芝區烏森吾妻屋旅館に滯在中なり

●同運輸部長の出張

台灣鐵道開通式に參列中なりし鐵道管理局岡運輸部長は三日夜歸任せり尚來る七日出發清國鐵道視察の途に就く由

●石川安次郎氏

當地に多くの友人を有する報知新聞の半山石川氏は報知北京通信員として去る廿日任地に向け東京を發せり

●兪吉濬の觀菊會

漢城府民會長兪吉濬氏は明后七日惠泉館に内外の紳士を招待して觀菊會を開催すると云ふ

公人私人

▲藤枝權六(元山稅關主事)二日歸任

▲樋口正美(義州採木公司理事長)二日歸任

▲綾部遜(陸軍步兵中尉)二日入京[illegible]館

▲佐久間賢次郎([illegible]技師)三日平壤へ向け出發

▲山崎久人(鎭南浦稅關主事)三日歸任

▲妻木頼黄(工學博士)三日入城天眞樓

●近事片々

▲東京朝日殖民地官吏の養成を論じて韓國現時の任用法を難ずる所大に其理ある也

▲無造作に日本の官吏を其儘に移殖したる故[illegible]不適の爲に却て支障を生ぜる也と

▲實際其言の如し船頭多きも航路を知らざる爲に間誤付くと同樣の趣ありて滑稽也

▲歐州諸國が殖民地の官吏には特種の任用法を設るは全く此等の屈魔を付かざる爲

▲獨逸の如きは殖民地官吏は一定の卒業證書を有する者を採用して語學をなさしむ

▲斯迄にせざるもせめては韓國の事情に多少通せるものを採らざる可らず是至當也

▲目暗滅法に言葉も解せず漢文さへも讀めざる者を韓人と机を並べさしむるは非也

▲互に意志の通せざる爲に事務上の圓滑を缺くは免る可らず今に於て刷新を要す也

▲實際はくだらぬ小役人を澤山置くより頭目に日本人を入れて鍵を握ることぞ肝要也

▲伊公も本月中旬には飯任すべきが扨今回は如何なる御土產を御持參なさるべきや

▲一日伊公桂侯と會して桂の財政手腕を賞賛して玄人跣足なりと頻に揶揄一番すと

▲桂侯も扱からず僕藏相を任たらん公起て總理大臣たれよと揶揄す公只苦笑せるのみ

▲太郎宰相近來勢力メキ〳〵增加し遂に公伊藤の上に出づ公大に面白からずと云ふ

▲後藤遞相近來更に意氣上らず殆ど伴食大臣たる姿さしもの爵も内閣では持てぬ

▲電話度數料金にでは大分攻擊を受け更にタヂ〳〵の氣味何ぞ例の勇氣を振はざる

▲男爵は矢張り殖民地の殿樣が適當かも知れぬ大臣は柄に合はぬかテモ意氣地なし

▲欠點もあるが兎に角惜い男韓國經營の任に當らしむれば却て必ず成蹟を擧げん乎

▲惟ふに今は渠が研究時代で他日必ず鳴く時來るべし到底普通の伴食には非ざる也

▲小松原文相も就任早々假名遣いに手を燒きたる爲か英太郎當年の面影更になし矣

▲米國のボプソン大佐例により日本の米艦歡迎は一の策略なりと此爺到底度し難し

▲猜疑心茲迄深ければ却て滑稽齎目鏡で見れば總て黒く見へる也隨分困つた爺殿也

▲大統領選擧も益々切迫愈々競爭激烈也ブ氏の勢力も中々侮る可らざるの形勢あり

▲ブ氏演說して曰く兩黨の爭は人民が政治[illegible]本や否にありと共[illegible]

第102호 1908. 11. 5.

謠曲閑話（二）

獨狩生

▲素人謠と黒人謠　素人謠と黒人謠とを比較すれば恰かも黒人連の謠は將佐官の如く幼少なる修業者と雖も何れも士官候補生に比するを得べし、之に反して素人連はたとひ上手達者と稱せらるゝものと雖も、漸く下士適任證を有する上等兵位に過ぎざるなり。何となれば[illegible]畢生の力を[illegible]に於て缺くる所[illegible]して謠曲を脱せず似て非なるものに終るべし[illegible]服役すると年久[illegible]養成の術を受け[illegible]に上等兵以上に[illegible]なりされば地謠の[illegible]の批評は拍子、形[illegible]發すべきものなり[illegible]たる場合は全く不[illegible]の言を以てすれば[illegible]きのみ。

▲謠曲の練習[illegible]ものはあらざるべ[illegible]は豁然大悟の玄機[illegible]の正座は偶ま座り[illegible]るに止まるもの多[illegible]一言以て之を掩へ[illegible]て余は更に今謠曲[illegible]に說かん[illegible]他、是れ大に非な[illegible]如く顋を突き出し[illegible]して正座すべし思[illegible]み合せ膝頭は拳二[illegible]、尻を落着けて臍[illegible]眼擣を平調にし眼[illegible]に意氣は坐中を呑[illegible]慢なるべからず、[illegible]ばなり古老曰く、[illegible]在るが如く　觀衆[illegible]思を以てすべしと

天長節の賑ひ

一昨日は天長の佳節のこととて人は何れも[illegible]當日は打ちつゞく[illegible]盛裝して[illegible]中に[illegible]龍山に於て觀兵[illegible]に赴くもの少なか[illegible]なる電車は非常に[illegible]居前を裝飾し國旗[illegible]龍屋辻屋三越及森[illegible]り裝飾を凝らす等[illegible]に園遊會歸りの人々[illegible]トハツトといふ粉

（前號の續き）裝にて何れも微醺を帶び往來するさまは恰かも正月の元日に於けると一樣の觀ありたり夜に入りては各劇場は何れも札止めの姿にて觀客は各店員殊に多きやうに見受けにき又遊廓料理屋の繁昌も非常にて此の不景氣つゞきに頭を痛め居る樓主等はお蔭で息がつけたこととなるべし其の他個人〳〵の宴會も諸所に行はれたるが流石は天長節丈けに賑ひを極めたり

仁川の火災

▲火元は醬油會社　▲全燒十一棟

仁川の放火犯今春櫃重が過般端なくも仁川署員の手にて捕縛せられし以來祝融子は長らくの間[illegible]を仁川に[illegible]市民をして安眠するを得るに至りしが俄然一昨三日午前一時二十分同地京町四丁目日本醬油會社の一隅より發火し見る〳〵中に同建物は勿論棟を列べし十一戸を燒き盡し漸く午前四時に至り鎭火したる椿事ありたり今左に其の顛末を詳報すべし

▲現場の光景　警鐘の亂打に長夜の夢を破られたる市民はスワ火事よと許りに現場に驅け付けし時は火は早や既に方方八方に回はり醬油釀造所、同澁突倉庫等は猛火に包まれ炎々の勢容易に近くべくもあらず爲めに消防夫も手を空ふして傍觀するの外如何とも策を施す詮なかりしといふ殊に左部倉庫の内に貯へたる三十有餘の大樽は何れも優等品のみにて其の損害高は多額なるものなりといふ

▲消防の盡力　醬油會社の建物は如何なる譯なりしか其他の建物についてとする能はざりしかど其他の建物は[illegible]の盡力は眼覺ましきものにて又消防夫の消防隊の働きも却々素晴しかりしといふさるにても當夜は給水不定にて一方ならざる支障を來し終に十一棟を燒失せしも併し消防隊の盡力にて其附近なる篠木氏及び茂木事務所を辛ふじて安全なるを得せしめたるは全く消防夫のお蔭でいふべし

▲飛火　當夜は風無く氣澄み渡り頗る靜穩なりし爲め火炎は高く天に沖し火片比較的附近にのみ降下せしが其の飛火に逢ひ棚外なる韓人の二家屋は爲めに類燒せりとは[illegible]

▲火元　火元に就ては或は職人部屋より出でしものなりといひ或は釀造所内より發しものなりなど種々の說あれど實は裏手左部倉庫の內に貯へたる[illegible]の倉庫なる懸け出しの藁葺の納屋より出火せしものなりといふ

▲出火の原因　同社にては平事夜番を設け終夜內外を警戒せしめ居るが同夜は夜番某が十數日前より都合上夜番を廢め居り其の後は事務員某が時々見廻り居りしが當夜は事務員某が斯くと發見せしときは早や火の手は一面にまはり居りたる有樣なるを以て今は原因としては尋ぬるに困難なるも察するに同倉庫には元來火の氣とては少しも無きものなれば多分は放火なるべしとの鑑定より仁川署にては早速刑事數名を派し犯人の搜索に從事せしめしに同夜年齡五十許りの人足体の男を嫌疑者として捕縛したるが果して犯人なるか否かは今に確定せず何れ後報を待つて揭載すべし

▲損害高　損害高は未だ精細なる調査を遂げざるを以て明白には判明せざれど同社員の語る所によれば約十萬圓以上に上るべしとのことなり

▲保險額　同社の建築物は同地第一銀行にて取り扱ひ居れる明治火災保險會社と二萬圓の保險契約をなし又商品は同地米人貿易商タウムセント氏が取り扱ひ居れるコンマーシャルに五萬一千圓の保險を附しあるを以て總計七萬一千圓の保險額ある譯なり

友人を射殺す

過失殺傷

去月三十日正午を過ぐる少許愛龍山を距る一里許りなる金浦郡西陽里に於て原籍靜岡縣靜岡市屋形町旅館營業岩田平三郎の二男當時明治町一丁目三十六番地宮本芳次郎方同居岩田恒夫（二四）なるものが誤つて同宿人なる廣島縣沼隈郡東村二番屋敷小川要市（二五）を獵銃にて射殺し加害者は翌日龍山分署に自首したる椿事こそありたり今左に事の顛末を記すべし

加害者岩田は去月二十八日前記の被害者小川外一名の友人と共に獵銃を肩にして龍山に赴き一隻の舟を借り受け舟夫崔聖乙を雇ひ正午頃漢江を下り到る所にて獵を爲し豫想外の獲物を得しが翌々三十日三名のものは最早愛も面白からずば少し足を踏み出して遠方に赴かばやと午前九時頃漢江を切り上げ正午頃前記金浦郡西陽里に到着せしが折柄晝食事にてもあり且つは一同非常に饑を感じたれば早速食事を認めんものと附近の鮮人沈雨澤方に到り舟夫崔をして炊事を爲さしめ岩田等三人は副食物に小鳥なりと射留めんものをと各々一挺の獵銃を肩にし其所より程遠からぬ山林に赴きしに其の際岩田は遙か彼方に獲物の居るを認めたれば一打に射落し呉れんと所持の獵銃をば肩より落さんとする刹那鬪らずも爆然たる一發の響は四邊を驚かし同時に彈丸は銃口を切つて近りしよと見る間に無殘にも彈丸は十間餘を隔り居りたる前記小川要市の背部を貫通し小川はアッといふ間もあらせず鮮血にまみれて其の場に倒れたるより岩田は驚き直ちに龍山に取つて返へし土地の醫師をして手當を加へしも終に其の効なく死亡せるより岩田は翌三十日午前一時龍山分署に出頭し其の旨自首せしかば同署にては種々取り調べを遂げ昨日加害者をば檢事局へ送致したり

●贋造紙幣行使未遂者受縛　第一銀行紙幣一萬五千圓を變造したりと其の情を明し交換對價として西部五宮室三十八統九戸朴昱夏の貰子朴圖具なるものより現金五百圓を詐取せんとして目的を果さゞりし愛媛縣溫泉郡河野村大字大河內三番戸現在所本町八丁目十一番地高橋德吉（三十）は一昨々日其筋の手に捕縛され目下嚴重なる取調を受けつゝあるが審問の結果犯跡意外に多く尙他にも共犯者ある由なれば詳細は追つて明日の紙上に報ずることゝせん

●秋季種痘日割　京城居留民團立漢城病院にては左の日割に依り午前十時より午後三時迄種痘を施行する由

六日（旭町二丁目歌舞伎座にて）七日（南山町本願寺別院にて）八日（本町七丁目京城座にて）九日（山下町二丁目山口商會隣家にて）

[illegible]生徒[illegible]

童等は更に期日を定め所屬學校々舍にて施行すべしといふ

●冷めしには往生する　旭町一丁目邊に大工の棟梁某といふがあり家は職人小僧の四五人も使ひて年中仕事も多く顏も相當に賣れ居れど唯職人社界の禁物には其の家の朝飯坊にてれ寺の坊さん鐘突こが枕屏風にきがそんなことには一向頓着なく朝十時頃でないと凝床を離れぬといふ女にてそれが爲め朝めしの仕度はいつも間に合はず職人小僧共は已むなく前の日に炊いた冷めしを大急ぎで掻つ込み晝の辨當も又其の冷めしを詰めて行くさいふ有樣に職人小僧共は仕事場に行つても腹が冷ねて碌々仕事が出來ず誠に往生するとかのことなるがつひ二三日前一人の小僧が一同に向ひて今後は冷めし廢止溫いめしに改良との議案を持ち出せしがさて其談判委員は自分等仲間では穩かならざれば隣りのおかみさんに賴むことゝなし去る三日の天長節の休みを幸ひに小僧は隣のおかみさんに其の譯を話せしにおかみさんは委細承知し機を見て直談判に及ぶべしとかの投書舞ひ込みたり

●三重吹の丸髷姿　新町大桝屋の二枚三重吹は面の構へは餘り感心せざれど閨の取り爲しが上手のと戀の表情に巧みな所からソンじやうソコ等の粹様方の評判者となり居りしが豫て二世も三世もと契りに契つた南大門外の運送屋の番頭さんの佐々木といふ色の小白ッぽい男はいよ〳〵晴れて夫婦となることゝなり一昨日天長の佳節をトして奇麗廢張とアンヨを洗ひ朋輩衆へ赤の御飯を配つてソンナラ皆様永々れ世話になりましたとホク〳〵もので男と手を取り南大門外に新世帶を持ちたりといふ

●蓄妾の發屋　明治町一丁目[illegible]一昨日の天長節を當て込みにそこ等愛等を飲み廻り懸て本町四丁目の或る友人の所で非常に御馳走になり足腰の想だぬ位へヘレケとなりしより家人に車を雇つて貰ひ歸途に就きたるが途中千代吉は明治町三丁目の所にて車を下り一寸小便に行くから爰に待つて居れと言つて何れへか行きしまゝ皈り來らず依て車夫は其の旨を警察署に訴へ出で巡査同道千代吉の居宅を尋ねし所いよ〳〵前記の所と判り千代吉は居らぬかと取り調べたりしに同人はスッポリ蒲團にくるまり蟲の如き鼾を掻いて寢ね居りしと云ふ呑氣な奴もあつたものなり

●チブス一束　龍山大村組池上たつ（三九）は二十九日[illegible]院へ[illegible]區三坂通二丁目田中ユキ（十三）は三十一日同病にて靑坡病院へ龍山十五間道路四ツ角吉田寛吾（十二）は二十九日同病にて大韓醫院へ何れも收容されたり

●科料一束　横濱生れ照義門通二十四番戸料理店野村つね（三十）は客を宿泊せしめ及び酌婦三人を無屆にて雇入れたる廉により四圓竹園町二丁目十一番地中村ギン（三七）は去月二十四日自宅にて韓人と金を賭し玉轉しを爲したる廉により一圓五十錢本町七丁目百十八番地古物商橋結カチ―（三五）は通行妨害を爲したるため五十錢のお灸を何れも据へられたり

●朝鮮十一月號　重要記事として「時事評論」「韓國森林整理の急務」「中繼港としての釜山の能力」「韓國の現狀と實踐主義」「大淸帝國の覺醒」「鶴原定吉氏と石塚英藏氏」等外十數種なるが何れも主筆長風氏其の他諸名士の執筆に係り光彩陸離覺ゆす再讀するを禁せざらしむ殊に雜纂欄は從前に比し多大の異彩を放ちたるは見るから に嬉しとす（一部二十錢京城本町二丁目日韓書房發行）

●天氣豫報（自四日午後六時至五日午後六時）

北又は東ノ風晴

四日午前六時各地氣象概況　高氣壓は吉林附近にありて北又は東の風吹き北韓は概ね曇天元山に降雨あれども其他は晴天なり

落語 湯屋番（二）

三遊亭圓遊口演

那んな女が日本に有るかと思ふと日本の女社會の恥ん成る樣なもんで日本の婦人は頭日西洋人の演說を譯したのを見たら地球上日本の婦人位權かに能く出來た女は無いと云ふんで外國人も驚いて居り升學問が有つてからに溫良くつて利口なのは英國邊りでもロンドン評判を爲て居る位なもんで其中に和郎さんのお神さん位客嗇で白痴で口入室敷い人は有ませんナ那んな婦人が日本に居ると思ふと實に情無い憐れ態然な譯でげすなア……

親「和郎は然う云ふが那れだつて最初は好いと思つて持たんだから然う云はれると餘り好い心持ちやア無いねへ

若「夫よりは稻葉の立花花魁でも早く落籍て持た方が好うがすせ三年の年期で來たんだけれどもモー六十五圓計りの借財だつて云ふんだから百圓持て往やア立派に那の花魁を落籍きつて女房に持ると云ふ一件でさア……那の楊枝の使ひ方なぞは巧いせ西洋楊枝の横使ひ杯は餘ぼり感心と爲ないねへタンブクで少しビリッと爲た齒磨尤も煉齒磨が好ひけれども那のキュツ〳〵と遣る工合に惚ちまつたねへ花魁の話しを爲たち何だか行度く成て來た今日は仕事を止てズッと午後から出掛ませうか

親「何の話しです私を連て吉原へ行うなんて云ふのは風暴いもんですなア私は然んなに弱い尻は有りません

若「然う怒つちやア恐れ入ますが私だつて何時迄も居候ぢやア居りませんや今に運が向くから其前祝ひに連てつて遣からうと思ふんで……

親「何です其運が向くと云ふのは……

若「聞けば話したいね話ませうか

親「承はり度ね何卒……

若「ぢやア話し升がな頃日水天宮樣へ參詣に行きました歸りに御湯へ這入りたいと思つて來ると其處に湯屋がありましたから小傳馬町の櫻湯と言ふ御湯へ這入りましたョ

親「アム……

若「這入ると番臺で二十七八の年增が下女かお神さんか近所から十錢宛で賴まれたんだか其處の處は分りませんが烏渡小股の切上つた中肉中背ポチャ愛嬌と云ふ女が御出で被爲ましと仕事を爲乍ら八方へ氣を配つて何うも御世辭を振掛る處は驚きました

親「其處で……

若「其處で私が着物を脫で向ふへポンと投込んで……何うも着物を脫で前を押へて姐さん手拭を一ツ……と云ふのは氣が利ませんか手拭を借てトン〳〵〳〵と風呂へ飛て這入つたが皆に熱くつて其苦しさが堪らなかつた

親「詰らない處で我慢を爲たもんですなア

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲二號活字十九字詰一行金十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞 京城南部 電話六六三番